

第20期第4回理事会議事録

日時 昭和54年10月24日(水) 18.00~19.30

場所 福岡市電気ビル

出席者 岸保, 小平, 浅井, 内田, 奥田, 関根, 新田,
山下 各常任理事 孫野, 田中, 中島, 伊藤,
山元, 竹内, 沢田, 坂上 各理事

岸保理事長より, 今回の秋季大会の開催についてお世話
下さった九州支部長ならびに関係者のご努力に対し, 謝
辞が述べられた後, 直ちに議題の審議に入った。

議 題

1. 昭和55年度財政の見通しについて

関根担当理事から, 財政の見通しと第1次議案編成
の内訳について説明があった。

(1) 機関誌の刊行状況について “気象研究ノート”
は, 136号に続いて137号か近く刊行される予定で
あり, 138号についても原稿が編集者にとどいてい
る。“天気”“気象集誌”については, それぞれ, 27巻
2号, 58巻1号まで刊行される見込みである。

(2) 会員数について 54年度当初より展開した会
員, 賛助会員の増強運動は, 役員各位, 各支部のご
努力により, 54.8.31現在で217名の増加を見た。
その後も増加の一途をたどり, 九州電力株式会社より
も賛助会員の申込みをいただいた。

(3) 昭和55年度の予算書(案)の概要 (a) 会員
数は昭和54年8月31日現在とした。(b) 印刷費に
ついては, 内容を検討して止むを得ぬ事項につき増
額することとし, “天気”“気象研究ノート”につい
ては6.1%, “気象集誌”は4.6%とした。人件費に
ついては前年度同様4%とした。(c) 旅費につい
ては, 秋季大会が京都で開催されるので, 庶務, 会
計, 講演企画, 奨励金各担当理事, 事務局1名の5
名分を計上した。その他の旅費は昭和54年度と同額
とした。(d) 会議費については, 気象庁の庁舎増
築工事のため講堂使用不可能なので, 春の大会, 夏
季大学の会場借上費を計上した。(e) 予備費は30
万円を計上した。(f) 事務職員は2.5名とした。
(g) 退職給与積立金, 記念事業準備積立金は, い
ずれも昭和54年度予算と同額とした。(h) 昨年
同様“天気”に『ひまわり』の画像から」掲載の
経費451,000円を計上した。(i) 山本賞として新
たに100,000円が計上された。(j) 「会計基準」導

入に伴い, 予算案の形式も支出の部は管理費, 事業
費に区分され, さらにそれぞれ細分化され, それに
伴う事務処理も複雑となった。この他, 雑収入とし
ての受取利息収入(運用財産の預金収入)基本財産
(基本財産預金収入)の相違についても説明があっ
た。なお, 昭和55年1月からの会費額については,
今回の予算書を見る限り繰越金が少ないので会費以
外の収入増加をはかる一方, 経費の節約につとめて
も近い将来会費は値上げせざるを得ないと考えられ
る。以上の説明に続いて予算書(第1次案)が説明
され原案は了承された。なお, 懸案となっている学
会会計年度を歴年にする件については「会計基準」
への移行ともならみ合わせて更に検討することとし
た。

2. 100周年記念事業(案)について

(1) 記念論文集の発刊 (a) “天気”(内田担当理
事説明) 1982年全体を記念の年として計画を考
える。特に4月号を記念特別号(200頁以下)とし,
座談会, レビュー, 通史, 総目録などを掲載する。
(b) “気象集誌”(浅井担当理事説明) “気象集誌”
特別号(Ser., II, Vol. 60の中の1号)を気象学会
100周年記念論文集とする。規模は300頁(30編, 1
編平均10頁)ぐらいを考えるが, 400頁(40編)ぐ
らいになる場合は“集誌”の1号分(約100頁)を
その増加分にあてる。学会員に対する公募を原則と
するが, 内容のいっそうの充実をはかるため, 外国
非会員の招待論文も含める。原稿募集(依頼)は
1980年4月頃としたい。

(2) 学会100年史の刊行(奥田担当理事説明) 75年
史以後の25年間分について, 学会の組織, 会員数,
国内国外に対する学会活動などを中心とした通史を
編纂してこれを“天気”に掲載する。

(3) 式典 75周年に準じて行なう。

(4) 記念講演会(シンポジウムを含む) 国際的な
会合(JSC, CASなど)が国内で開催されるようだ
ったら, その中の数名に東京および若干の都市で記
念講演をしてもらおうとか, あるいは記念事業として
外国の著名な学者を日本に呼んで同様な講演をして
もらうことが種々検討された。どのような形にする
かは諸情勢を勘案しながら, さらに検討していくこ

ととなった。

(5) 支部講演会(座談会) 各支部において、会員ならびに一般人を対象としたそれぞれの記念講演会などを企画したい。また、各地方新聞社の協力を得て、地元に関係のある気象の座談会などを行なうことも有意義であろう。

3. 100周年記念事業準備委員会の発足について

第12回常任理事会で話し合われた内容(庶務、会計、“天気”、“気象集誌”、講演企画担当理事に依頼し、何人か地方理事にも加わってもらう。一部は理事以外の人にも入ってもらう)について報告があり、了承された。

4. その他

(1) 山元理事より次のとおりの連絡があった (a) 昭和55年秋季大会開催地：京都。(b) 日時：昭和55年10月29日(水)、30日(木)、31日(金)。(c) 本年度の関西支部開催の夏季大学は、140名ということで成功であった。その後のアンケートでも参加者の意見はまあまあということであった。(d) 来年のテーマについて講師が実際自分で原稿をつくらなければならないので、本部のテーマにあわせることなく、「台風」を中心とし大阪で作成するので本年度同様助成金をお願いしたい。

承認事項 佐藤篤司ほか12名の新入会員を承認。



続 気象学入門講座

これからの予定

(太字は既に掲載されたもの、カッコ内は掲載された巻号)

- 気象学へのガイダンス (25.4)
 [基礎コース]
 気象解析の手引き (25.5)
 気象力学・気象熱力学 (25.6)
 気象放射学への手引き (26.10)
 高層大気物理学入門 (25.5)
 雲物理学・降水物理学 (25.8)
 大気電気学・大気化学 (25.12)
 気象の観測と測器 (26.11)
 気象統計について (25.7)
 気候学
 生活と気象 (25.6)
 [アドヴァンスト・コース]
 気象予測論 (25.7)

- 回転流体力学を学ぶために(25.6)
 対流論 (25.6)
 中小規模現象の気象学 (25.11)
 大気大循環論 (26.2)
 エーロゾルの気象学
 気候変動論
 熱帯気象学 (25.8)
 高層大気力学の諸問題 (25.9)
 高層大気物性 (26.3)
 大気境界層 (26.12)
 衛星気象学 (25.8)
 レーダ気象学 (26.12)
 惑星気象学 (25.7)
 自動気象観測(隔測)・通報システム

- 応用気象学
 大気汚染 (26.10)
 実験気象学 (25.10, 26.5)
 天候・気候変化の気象学
 海洋気象学 (25.9)
 極地気象学 (26.9)
 気象災害論 (25.9)
 気象教育論
 気象データ処理法 (26.4, 26.11)
 [研究のすすめ方]
 最近の気象資料 (26.8)
 論文の書き方 (27.1)
 気象学教科書・参考書のリスト